



環境報告書 2017

CREATIVE CONNECTIVITY



未来へのバトンを、次世代に繋げる。

アメリカ大統領のパリ協定(温暖化対策を定めた国際協定)離脱表明は世界に衝撃を与えました。先進国・開発途上国の区別なく、196か国と地域が気候変動対策に向けてベクトルを合わせ、ようやくスタートを切った矢先でしたので、波紋の広がり懸念を抱かずにはいられません。

しかし、今日までアメリカの離脱に追随する国は無く、パリ協定の支持は保たれています。日本政府は現在、2050年までの長期低炭素ビジョンを作成中です。今後もSMKグループは、政府が示すビジョンに向けて、企業の成長と環境保全との調和を重点課題として取り組んでいくことに変わりはありません。

近年、物質面の豊かさより、心の豊かさや、ゆとりある生活に価値を置く人が増えてきています。そして、所有欲の優先度が下がり、他人と分かち合うシェア志向へと変化しています。先進国での長期化する経済不況など様々な背景があると思いますが、高度経済成長期からの大量消費による廃棄物の問題、頻発する異常気象などに

人々の関心が高まり、地球を慈しむ心が生んだ価値観とも言えるでしょう。こうした価値観の変化により、新しい技術が発展し、ビジネスのあり方も変化します。

SMKグループは、中期経営戦略2020ビジョン「Challenge Creativity Solutions」を掲げています。環境保全の分野においても、環境に配慮した製品の開発や環境ビジネス市場・事業の創出といった取り組みが、お客様や社会の課題を解決するソリューション企業への発展となり、地球環境保全に貢献する企業として成長を目指します。

この美しい地球を未来に生きる人たちとシェアすることを望まない人はいないでしょう。社会的課題、地球環境が抱える課題に一つひとつ向き合うことで、未来は変えられます。SMKのソリューション企業としてのチャレンジは、突き詰めれば、「未来へのバトン」を次の世代へ確実に繋げていくことだと、私は信じています。

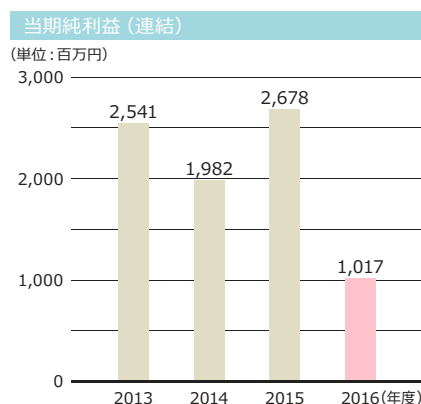
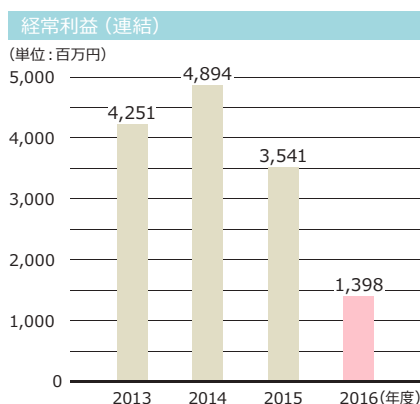
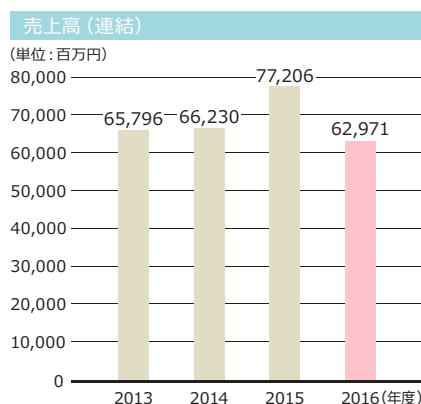
2017年7月

代表取締役社長 池田 靖光

| | | | |
|----------------|---|------------------|----|
| トップメッセージ | 1 | 省エネルギー・省資源への取り組み | 5 |
| 会社概要 | 2 | 環境会計 | 6 |
| 環境マネジメント | 3 | 環境保全活動トピックス | 7 |
| 2016年度環境保全活動総括 | 4 | 環境に配慮した製品づくり | 10 |
| マテリアルバランス | 4 | | |

会社概要 (2017年3月31日現在)

商号 SMK株式会社
英文社名 SMK Corporation
創業 1925年(大正14年)4月3日
主な事業 電気、通信および電子機器その他産業機械、情報機器等に使用される各種電子機構部品の製造販売
資本金 7,996百万円
社員数 6,188名(グループ)
本社 〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号 TEL.(03) 3785-1111(代表) FAX.(03) 3785-1878
 ホームページアドレス <http://www.smk.co.jp/>
主な製品 高周波同軸コネクタ/FPC対基板コネクタ/基板対基板コネクタ/ジャック/リモコン/スイッチ/各種無線モジュール/カメラモジュール/抵抗膜方式タッチパネル/静電容量方式タッチパネル/光学方式タッチパネル



本報告書について

対象期間 2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)

集計範囲 SMK株式会社(国内9拠点)および連結子会社(国内2拠点、海外18拠点)

CO₂排出量について 国内事業所は電気事業連合会、海外事業所は2005年から2011年はIEA(International Energy Agency)、2012年からはDEFRA(Department for Environment Food & Rural Affairs)の換算係数に準拠します。また、CO₂換算係数を見直したため過去年度のデータを修正しています。

企業情報の入手方法 会社案内、IR情報、製品紹介、過去の環境報告書はSMKホームページで公開しています。
<http://www.smk.co.jp/>

環境マネジメント

SMK グループ環境憲章

1. 基本理念

SMKは良き企業市民として社員一人ひとりが
地球的規模で持続的発展が可能な社会に
寄与するという自覚を持ち、
総合的な高度技術により
経済発展と環境保全の両立に努めます。

2. 行動指針

- (1) 環境にやさしい製品の開発をします。
- (2) 物を大切にし、廃棄物を減少させます。
- (3) 資源を大切にし、エネルギーを節約します。
- (4) 3R (リデュース・リユース・リサイクル) を推進します。
- (5) 無駄のない購入・生産をします。

環境保全推進体制

SMKの環境保全に関するグループの方針、目標、施策は環境担当役員を委員長とする「環境保全委員会」と、重要事項については執行役員会で審議、決定し、国内外の事業所に展開されます。各事業所ではグループの方針、目標、施策を受け、さらに固有の課題も取り入れて「事業所環境保全委員会」で事業所の方針、目標、施策を定めて活動を行っています。

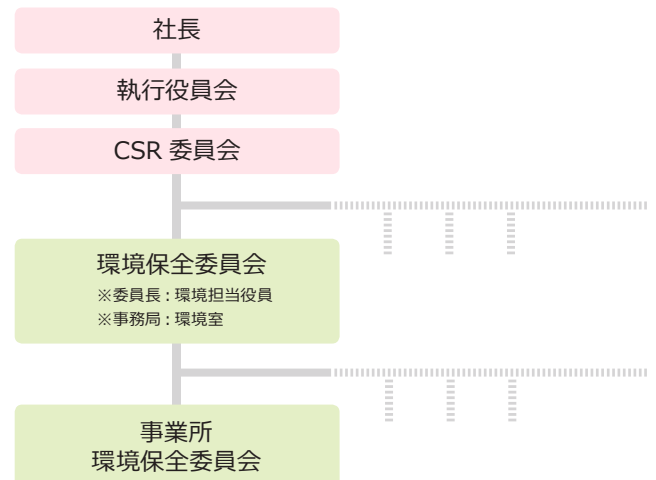
環境マネジメントシステム

SMKの環境マネジメントシステムは国際規格であるISO14001に基づいており、国内の全拠点、海外の全生産事業所で認証を取得しています。

2007年度からは、各拠点での活動に加え、全グループ共通の目標、テーマを設定して拠点間のつながりを強化し、グループ全体のシステムの高度化を図ってきました。

また、環境保全活動はグループ内にとどまらず、2004年に初版を発行したグリーン調達ガイドラインでは、協力会社様にも活動推進をお願いしています。具体的には、SMKが禁止する環境負荷物質の不使用をお約束いただくとともに、ISO14001に基づく体制の構築をお願いしています。ISO14001の認証を取得されていない協力会社様に対しては、環境保全活動の実施状況を訪問して確認し、改善指導を行っています。

環境保全組織



化学薬品漏洩対応訓練（フィリピン工場）



環境内部監査員教育（本社）



製品廃棄物処理現場の視察（富山事業所）

2016年度環境保全活動総括

地球温暖化防止

CO₂排出量は、前年度に増床した海外生産事業所において、新規導入生産設備が本格稼働したことが主因で、生産高CO₂原単位は増加しました。CO₂総排出量も目標達成に至らず前年度並みの実績となりました。

生物多様性保全

協会会社様とともに活動するに相応しい施策の情報を収集中です。

資源の有効活用

製造工程における“ムダ取り”活動を推進しました結果、廃棄物総排出量は削減目標を達成できましたが、生産高廃棄物原単位は増加しました。埋立処分量は、海外生

産事業所にて増員した従業員の生活ゴミが、見込以上に多く排出したことが原因にて増加しました。

環境関連物質管理の確実な対応

部材構成情報システムの使用対象者を拡充するロードマップを策定しました。

今後は海外担当者も含めロードマップに基づき展開、定着化を図ります。

環境配慮設計の強化

製品アセスメントとエコ商品管理システム統合に向け、統合方針を策定しました。

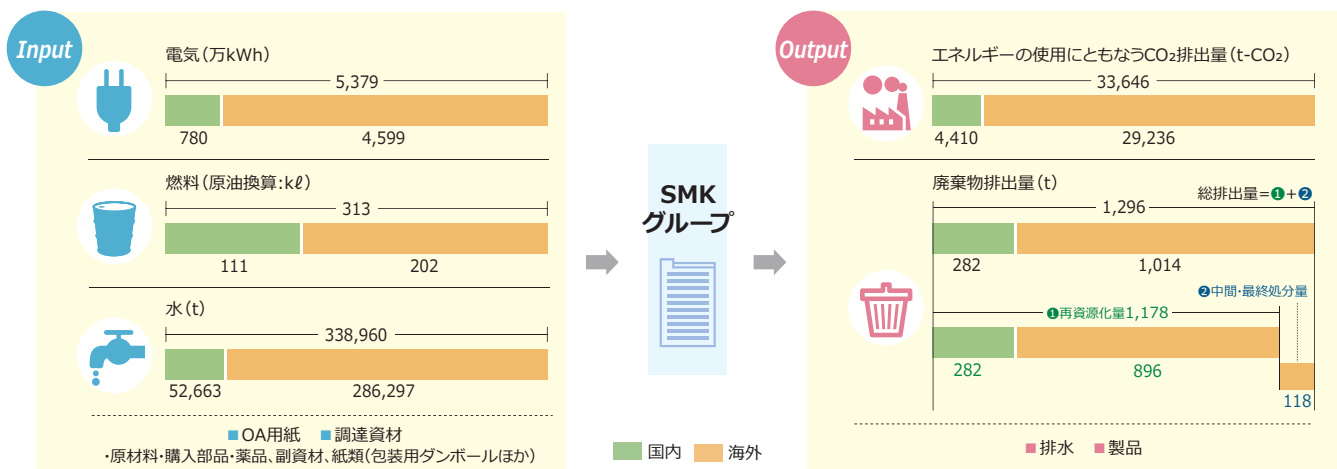
2017年度は統合方針に沿って、課題別に推進WGを新規に立ち上げ対応します。

| 取り組み項目 | 2016年度 | | 自己評価 |
|----------------|--|-----------------------------------|------|
| | 目標 | 実績 | |
| 地球温暖化防止 | 生産高CO ₂ 原単位*1を対前年度比2%増加見込 目標：0.48t-CO ₂ /百万円 | 28%増加 0.6t-CO ₂ /百万円 | × |
| | CO ₂ 総排出量を対前年度比1%削減 目標：33,386t-CO ₂ | 前年度並み 33,646t-CO ₂ | △ |
| | LCA（カーボンフットプリント含む）SMK基準の検討 | スコープ3試行カテゴリーの追加検討、公表済企業の状況調査 | × |
| 生物多様性保全 | 生物多様性保全を考慮した購買活動の検討 | 情報入手、調査中 | × |
| 資源の有効活用 | 生産高廃棄物原単位*2を対前年度比±0%見込 目標：0.019t/百万円 | 21%増加 0.023t-CO ₂ /百万円 | × |
| | 廃棄物総排出量を対前年度比1%削減 目標：1,323t | 3%削減 1,296t | ○ |
| | 埋立処分量を対前年度比5%増加見込 目標：99t | 26%増加 118t | × |
| 環境関連物質管理の確実な対応 | 部材構成情報登録・EU-REACH規則対応システムの効率運用 | 管理システム展開のロードマップ策定 | △ |
| 環境配慮設計の強化 | 製品アセスメントのレベルアップ | 製品アセスメントとエコ商品管理システムの統合方針を策定 | △ |

*1：生産高CO₂原単位 = CO₂排出量/生産高 *2：生産高廃棄物原単位 = 廃棄物排出量/生産高 自己評価：○ 目標達成 △ 不十分 × 目標未達成

マテリアルバランス

SMKでは製品の設計・開発、製造、販売などグループ全体の各プロセスにおける環境負荷量のマテリアルバランスを把握・解析し、低減化に努めています。



省エネルギー・省資源への取り組み

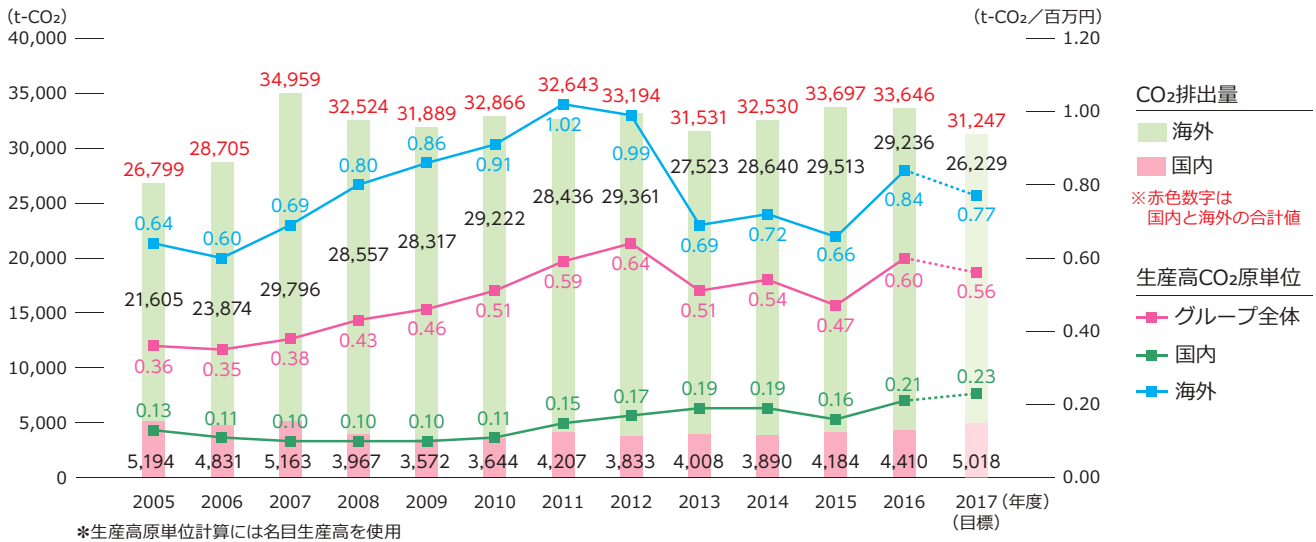
SMKでは、地球温暖化防止を重要な経営課題として、エネルギー効率の改善を図っています。また、廃棄物量の抑制やゼロエミッション化（廃棄物埋処分量ゼロ）に取り組み、資源の有効活用を目指します。

省エネルギーへの取り組み

◎生産高原単位は増加（前年度比128%）、排出量は若干減少となりました（前年度比100%）。生産高原単位増加の理由は環境保全活動総括で記述したとおりです。

| | 前年度実績比 | |
|------------------------------------|--------|-----------|
| | 国内 | SMKグループ全体 |
| 生産高 CO ₂ 原単位 (名目生産高) | 131% | 128% |
| CO ₂ 排出量 | 105% | 100% |

CO₂排出量



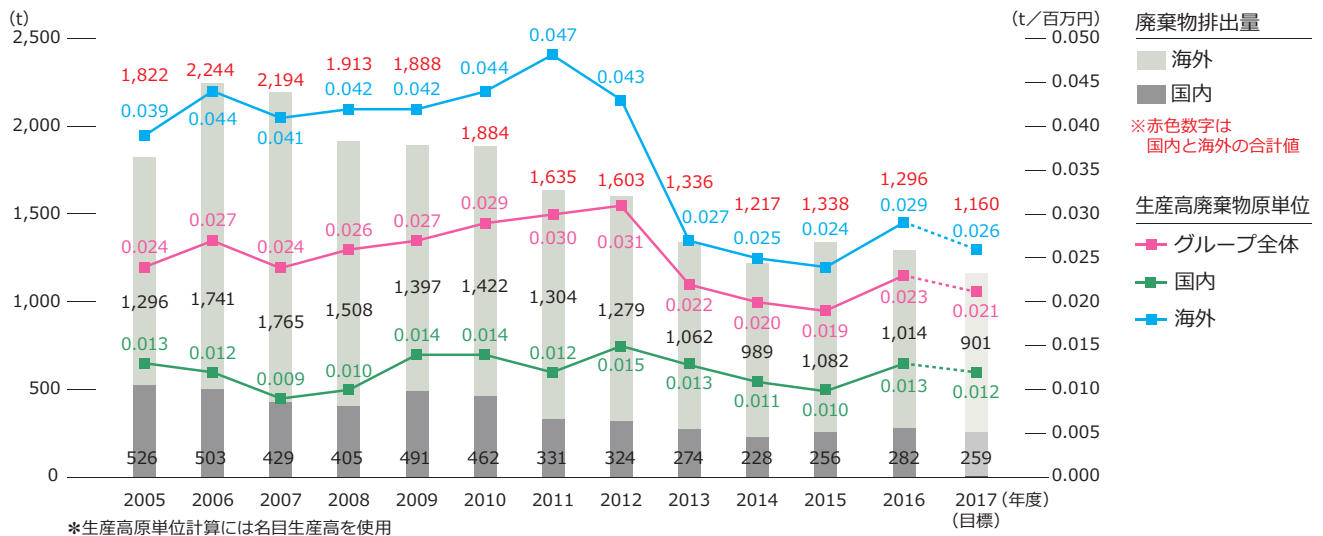
省資源への取り組み

◎生産高廃棄物原単位は増加しましたが（前年度比121%）、廃棄物排出量は、減少となりました（前年度比97%）。

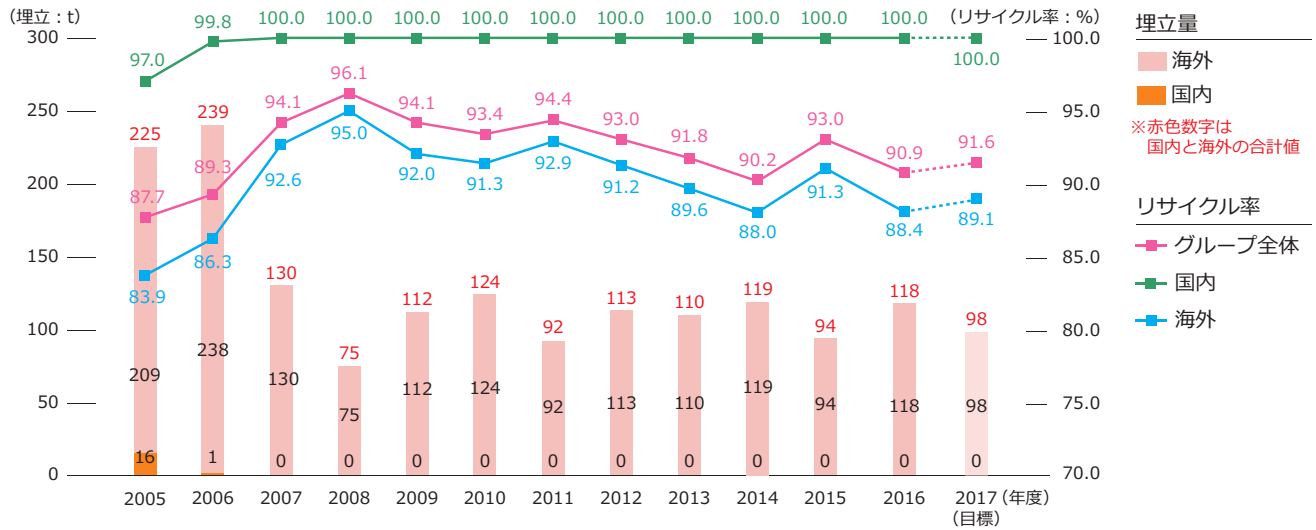
◎埋処分量は、環境保全活動総括で記述したとおり、海外生産事業所において生活ゴミの排出が増えたことにより、増加となりました（前期比126%）。

| | 前年度実績比 | |
|----------------------|--------|-----------|
| | 国内 | SMKグループ全体 |
| 生産高廃棄物原単位 (名目生産高) | 130% | 121% |
| 廃棄物排出量 | 110% | 97% |
| 埋処分量 | — | 126% |

廃棄物排出量



埋立処分量とリサイクル率



環境会計

環境保全コストと効果

金額単位：百万円

| コスト分類 | 主な取り組み内容 | 環境保全コスト | | | | 経済効果 | | 環境保全効果(物量) | |
|-----------|--|---------|------|-------|------|-------|------|---|------|
| | | 投資額 | | 費用額 | | 金額 | 前年度比 | 削減量 | 前年度比 |
| | | 金額 | 前年度比 | 金額 | 前年度比 | | | | |
| 事業エリア内コスト | | | | | | | | | |
| 公害防止 | 公害防止処理施設の運用・維持等 | 0.7 | 11% | 29.1 | 83% | 0 | — | 環境負荷物質 使用量▲37.5t | — |
| 地球環境保全 | 省エネルギー機器導入、冷暖房等の設備の効率稼働および保守・点検等 | 22.7 | 57% | 54.8 | 91% | 16.8 | 53% | 生産高CO ₂ 原単位 ▲0.13t-CO ₂ /百万円 | — |
| 資源循環 | 廃棄物の適正処理・リサイクルの推進等 | 0 | — | 40.1 | 153% | 106.9 | 119% | ▲埋立処分量24t 生産高廃棄物原単位 ▲0.0045t/百万円 | — |
| 小計 | — | 23.4 | 51% | 124.0 | 102% | 123.6 | 102% | — | — |
| 上・下流 | グリーン購入の推進等 | 0 | — | 0.3 | 109% | 0 | — | — | — |
| 管理活動 | 蛍光X線分析装置の更新、製品への環境負荷物質非含有保証活動、環境マネジメントの推進等 | 24.8 | 98% | 193.3 | 94% | 0 | — | — | — |
| 研究開発 | エコ製品開発の推進等 | 0 | — | 17.6 | 70% | 0 | — | — | — |
| 社会活動 | 事業所内緑化活動等 | 0 | — | 7.7 | 89% | 0 | — | — | — |
| 環境損傷 | — | 0 | — | 0 | — | 0 | — | — | — |
| 合計 | — | 48.2 | 68% | 343.0 | 95% | 123.6 | 102% | — | — |

◎**環境保全コストについて**：前年度に対し投資、費用とも減少となりました。主な投資は、一部拠点における省エネ機器（LED型照明、最新式空調設備など）の導入と、環境負荷物質非含有検査で使用する蛍光 X線分析装置を更新したことによるものです。

◎**経済効果について**：ほぼ前年並みとなりました。主な経済効果は、一昨年に設置した太陽光発電システムによる売電効果額と廃棄物の売却益です。

◎**環境保全効果(物量削減)について**：改善活動を推進しましたが、生産高 CO₂原単位、廃棄物の埋立処分量および生産高原単位とも悪化しました。

太陽光発電実績

SMKおよび子会社が所有する太陽光発電システムによる2016年度の発電量は132万kWhでした。CO₂削減効果は414t-CO₂です。

* 太陽光発電協会業界自主ルールの変換値を使用



環境活動トピックス

環境コミュニケーション

環境保全活動の紹介とものづくり教室

品川区環境情報活動センターとの共催で、体験型環境学習講座「環境保全活動の紹介とものづくり教室」を開催しました。子供たちに「環境保全の大切さ」と「ものづくりの楽しさ」を伝えるプログラムで、地域の小学生19名とご家族にご参加いただきました。

環境保全活動の紹介では、CO₂削減による地球温暖化防止、3R（リデュース・リユース・リサイクル）による資源の大切さ、有害物質を使わない製品作りについてご説明した後、SMKがトランスナショナルで取り組んでいる様々な活動をご紹介します。

ものづくり教室では、環境に配慮した材料やリサイクル材料を使った電子工作を体験していただきました。

この講座を通じて子供たちが楽しく環境保全への関心を高められるように、今後も活動を続けていきます。

本 社



環境ワークショップ

地域の幼稚園を訪問して環境に関するイベントを開催し、200名を超える子供たちが参加しました。

子供たちは、ゴミの分別、省エネ、水の大切さなどを体験プログラムを通して学びました。

また、バハ・カリフォルニア州政府主催の「環境 EXPO2016」では、リサイクルをテーマとしたワークショップを開催しました。

メキシコ
工場



資源の有効活用



フィリピン
工場

廃材を利用したスクールチェアの寄付

使用済みの梱包木箱とガラスの保護紙から社内製作したスクールチェアとお絵描き帳を、近郊の小学校へ寄付する活動を続けています。

これまで、550脚のスクールチェアと550冊のお絵描き帳を子供たちへ贈ることができました。

スクールチェアの不足により、床に座って学習をしている学校も多くあります。

少しでも良い学習環境の中で子供たちが多くを学び、夢を描いてくれることを願います。



清掃活動

マレーシア
工場



「グリーン環境のために登ろう!」をスローガンに、地域にそびえるプロガルヒルにゴミを拾いながら登りました。このイベントには従業員とご家族の132名が参加しました。整備されたハイキングコースを進み、辿り着く頂上からは熱帯雨林と私たちの街が一望でき、この自然を大切にしたいと改めて思いました。

環境活動トピックス

清掃活動

中国東莞
工場



4月と6月に開催された旗峰山公園の清掃ボランティア活動に、延べ47名の従業員が参加しました。

清掃活動中に会ったご家族が、「休日なのに街をきれいにするためにゴミを拾ってくれているんだよ。だから私たちもゴミをポイ捨てしてはだめだよ。」と話しているのを聞きました。美しい街づくりに関心を持っていただいたと思うと、活動の喜びも一層大きくなりました。

事業所前の市道の清掃を企画し、従業員46名が参加しました。日頃、ゴミは少ない道と思っていましたが、側溝には枯れ葉が堆積し雑草が生い茂っており、想像を超えたゴミを回収することができました。



富山
事業所

自然環境の保護

フィリピン
工場

植樹

市の行政機関の協力のもと、オオゴチョウとカリンの苗木を合わせて200本植樹しました。この活動に従業員30名が参加しました。



ひたち
事業所



緑のオーナー

「緑のオーナー」は林野庁による国有林の森林整備促進を目的とした、育林制度です。SMKは1991年10月に、事業所がある茨城県に所在する対象森林の生育費用の一部を負担する契約を結びました。25年経過し、当時の若木は豊かな森に育っています。



環境に配慮した製品づくり

Micro USBコネクタ (スプリング端子)

スマートフォン・携帯電話等で使用される Micro USB コネクタです。

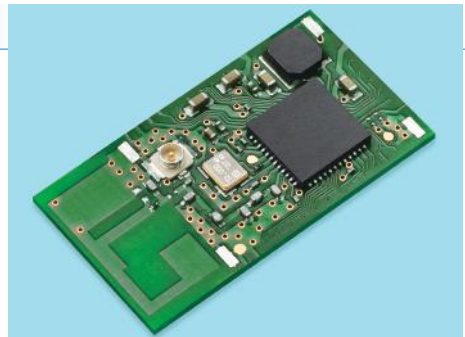
基板への接続は端子を基板に押し当て接触するスプリング端子とし、はんだを使わない方式を採用しています。RoHS指令、およびハロゲンフリーを考慮した設計、材料選定を行っています。



Thread対応 無線モジュール

小型・低消費電力対応のアンテナ一体型無線モジュールです。通信規格の Thread に準拠し、高い省電力性能に対応しています。

ホームネットワークやインダストリー分野の IoT、M2M に応用されることで、エネルギーの節約に貢献します。



静電容量方式 曲面タッチパネル 「Wing Touch[®] MM」

従来のタッチパネルとして主流であるITOセンサーに代わり、抵抗値が低く導電性に優れた銅メッシュセンサーを採用した静電容量方式タッチパネルです。

ITOに含まれる希少金属であるインジウムを使用しない、環境に配慮したタッチパネルで、産業機器・電子掲示板向けに34インチの大画面まで対応し、曲面形状のカバーパネルへも貼り合わせる事が可能です。



SIGFOXモジュール (WF923)

SIGFOXモジュールは、モジュール内にパワーマネージメント機能を盛り込み、省電力化を図っています。

また、各種センサデータ取得、電力消費量監視等の分野で使用される製品で、エネルギーの節約に貢献します。



本報告書は、用紙にFSC®認証林および管理された森林から製品化されたFSC®ミックス
認証紙を用い、インキには有害なVOC(揮発性有機化合物)を排除し、ほぼ100%
植物油を材料としたベジタブルインキを使用、印刷方式には有害な廃液を排出しない
水なし印刷を採用しています。



SMK株式会社

〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号

環境室 TEL: (03) 3785-5058 FAX: (03) 3785-0517 ホームページアドレス <http://www.smk.co.jp/>

2017年7月発行